

賢い患者に なるために

① 医師の説明、本当に納得していますか

② 誰かに話せば理解度が分かる

インフォームド・コンセントが大事だと言われます。医師から説明された病状や治療法を理解・納得したうえで同意することを意味しますが、同意が、あまりにも性急に進められていませんか。大切なのはプロセスです。納得して医療を受けるには、納得するためのプロセスが欠かせません。

先生に言われたので手術をする。――。本当に納得していますか。手術の予約をしてから別の専門医に相談するようなことになっていませんか。化学療法を受け始めた後で疑問を感じていませんか。ひっかかるなら、いったん中断して深呼吸してはどうでしょう。急性で亡くなるが、人は多くありません。焦る必要はないのです。

その判断を家族がサポートする。それができると落ち着いて治療を受けられ、生活の質も高まります。プロセスを充実させるには二つの方法があります。医師の話す内容を理解すること、患者側と医療者側が情報を共有して信頼関係を築くことです。

医師の説明をどこまで理解・納得しているか。それを確認するには、誰かに話してみることです。それを聞いた相手が分かったかどうか。患者自身が理解できていなければ、相手は分かるようには話せません。

私の診療では、患者にがん告知をして治療法を説明した時、高いかもいけません。私の診療では、患者にがん告知をして治療法を説明した時、高いかもいけません。

「医師は忙しい。そんな余裕はない」という声もあるでしょう。米国でも医師は決して暇ではありません。要は誰のための医療なのか、ということだと思います。

上野直人 医師



うのの・なおと 米テキサス州立大M・D・アンダーソンがんセンター准教授。89年、和歌山県立医大卒。米ピッツバーグ大付属病院などで一般内科研修。98年に同センターへ。米内科専門医、米腫瘍内科専門医。